九州経済

ファクス 092（711）6249　メールkeizai@nishinippon.co.jp

◆イタリアとのビジネスフォーラム　西日本国際ビジネスフォーラム（日伊経済連合会主催）が16日午後1時、福岡市・天神のスカイホールで開かれる。無料。

日伊間の外交やビジネス展望などについて、日伊経済連合会長や駐日イタリア大使、日銀福岡支店長、イタリア銀行日本事務所代表らが意見交換する。イタリア投資セミナーもある。申し込みは「Nishinippon Business Forum」のホームページから。同連合会＝092(292)0092。

◆中南米4カ国のビジネスセミナー　日本貿易振興機構（ジェトロ）などは22日午後2時、福岡市博多区中洲のアクア博多で、中南米の太平洋同盟（チリ、コロンビア、メキシコ、ペルー）に関するセミナーを開く。参加無料。

太平洋同盟は、自由貿易圏の形成を目指し2015年に協定発効。セミナーは東京に続き開催。同盟各国の駐日大使によるパネル討論や、日本企業の進出動向、貿易や投資に関する説明などがある。問い合わせはジェトロ福岡＝092（741）8783。

IH調理器体験できます

IH調理器の実演ができる「オールデンカー」。トラックの荷台部分に機器は全て収納できる　＝14日、福岡市

「オールデンカー」始動

九州電力 移動実演で販促

九州電力は、オール電化機器の実演車「オールデンカー」を製作した。営業所から離れた地域に暮らす人などにIH調理器を体験してもらう狙い。13日から稼働し、来年3月まで九州7県を巡る。1トントラックを改装。IH調理器3台や、出力5・5㌔の発電機、フライパンや鍋などの調理器具を収納している。女性社員の声を取り入れ、ピンクを主体にしたかわいらしいデザインにした。車両は電気ではなく、ガソリンで動く。

九電はIH調理器の使用体験ができるトレーラーを所有していたが、東京電力福島第1原発事故後にオール電化の販促を控え、トレーラーも廃止した。

昨年、オール電化の販促を再開。今回の実演車は小回りが利き「公民館の駐車場や地域イベントで使ってもらいやすい」と担当者。災害時の炊き出しにも活用できると見込む。（石田剛）

中小企業商談会

福岡の98社参加

福岡県内の中小企業・小規模事業者を対象にした「地域中小企業支援協議会合同商談会」が14日、福岡市であった＝写真。県内の98社が参加し、全国のバイヤー41人に商品を売り込んだ。

県などで構成する実行委員会が事業者の優れた逸品

医療モールの展開加速

ひと

総合メディカル（福岡市）
坂本 賢治社長

4月から2020年3月までの中期経営計画で、複数の医院などを1カ所に集めた「医療モール」を全国で200カ所（現在80カ所）に増やす目標を掲げる。「高齢化とともに患者の病気が複合化していく。医療の質を上げるにはチームを組んで1人の患者を診る方がいい」と語る。

地方都市のモールは、主に在宅医療への対応を強化。三大都市圏のモールでは、高度な医療を担う病院との連携に重点を置く戦略だ。主力事業の薬局もモールに併設することで1店当たりの売上高を高めていく。

17年9月中間連結決算は売上高、利益ともに過去最高を更新。中期経営計画の出足は好調だ。3年間で「日本型ヘルスケアビジネスの完成につなげたい」と意気込む。

格を
クラ
創業
迎え
らわ
だ▼
し、
社を
営を
出演

九州の18地銀

13行が最終増益

9月中間まとめ 構造改革など進む

九州の地方銀行の2017年9月中間期決算が14日、出そろった。日銀がマイナス金利政策を導入して2回目の中間決算で、経営環境が厳しさを増す中、18行のうち13行で最終利益が増益だった。前年同期は17行が減益だったが、新たな収益源開拓や働き方改革など、構造改革への取り組みが業績の差として表れてきた。

預金を融資に回して利益を得る本業は、マイナス金利で圧迫。貸出金利息は14行で減り、前年同期の15行とほぼ同じだった。ただ利回りの低下幅は緩やかになり「最悪期を脱する糸口が見えた」（西日本フィナンシャルホールディングスの谷川浩道社長）といった前向きな見方も出てきた。

金利が低い首都圏の企業や地方公共団体への融資を引き揚げ、地元企業への融資を増やすことなどで、利回り低下に歯止めがかかる傾向が見られる。融資先を千社増やした佐賀銀行の陣内芳博頭取が「金利競争よりも事業性評価やコンサルティングを打ち出している」と語るなど、過剰な金利競争を避ける動きが相次いでいる。

企業を取り巻く景況感の改善も追い風になった。融資先の倒産やリスクが減り、不良債権処理に備えた信用コストが11行で減少。株式市場の好況を受け、投資信託や保険販売などに注力、手数料収入が増加した。

新たな収益源として企業の合併・買収（M&A）や事業承継などの仲介を強化する地銀も目立った。宮崎銀行はM&Aの仲介手数料が約10倍に。働き方改革などで経費の大幅カットに成功する事例もあった。本業のもうけを示すコア業務純益は増加10行、減少8行。

今後について、ふくおかフィナンシャルグループの柴戸隆成社長は「マイナス金利の影響は弱まっているが、金利低下はまだまだ続く」と指摘。「金利低下を貸出金残高の増加でカバーし切れない」（九州フィナンシャルグループの郡山明久取締役）という厳しい環境が続く見通しだ。

各地銀とも働き方改革や業務効率化などの構造改革が欠かせないとの認識が支配的。南日本銀行の斎藤真一副頭取は「フィンテックやロボテックも絡ませないといけない」と危機感をにじませた。（中野雄策、石田剛）

九州FG70％増益 熊本地震から反転

九州フィナンシャルグループ（九州FG、本社熊本市）は14日、2017年9月中間連結決算を発表した。最終利益は127億3100万円と、熊本地震の影響で実質的な減益だった前年同期から反転し、70・9％の増益となった。

マイナス金利の影響で、経常収益は5・2％減の824億6500万円。熊本地震の影響が大きかった肥後銀行で、不良債権処理額が約23億円減るなど、信用コストが減少。働き方改革を進め、肥後、鹿児島銀行で人件費を3億円弱削減するなど経費削減も寄与。経常利益は71・1％増の189億1800万円だった。

九州の地銀の2017年9月中間決算

	経常収益	貸出金利息	コア業務純益	純利益	信用コスト	不良債権比率	自己資本比率
（FFG）	1221（ 5.8）	675（ 1.5）	365（ 3.3）	279（ 82.9）	▲74	2.0（▲0.1）	9.04
福岡※	878（▲1.3）	499（ 2.9）	303（ 2.3）	225（▲12.0）	▲37	1.8（▲0.1）	8.64
親和※	196（ 4.6）	94（▲2.2）	36（ 3.5）	50（ 24.6）	▲25	2.3（▲0.2）	9.14
熊本※	131（ 13.4）	81（▲1.7）	25（ 15.0）	26（黒字転換）	▲11	2.7（▲0.5）	9.84
（西日本FH）	722（ —）	423（ —）	199（ —）	124（ —）	13	2.1（ —）	9.05
西日本シティ※	782（ 17.1）	398（▲1.2）	165（▲3.3）	247（ 70.1）	7	2.1（▲0.2）	9.16
長崎※	28（ 4.5）	20（▲2.0）	1（▲14.7）	3（ 39.3）	▲2	1.9（▲0.6）	8.83
（九州FG）	824（▲5.2）	346（▲0.8）	153（ 9.9）	127（ 70.9）	9	2.3（▲0.2）	12.27
肥後※	367（▲7.1）	165（▲0.5）	72（ 16.2）	77（ 50.3）	▲0	2.0（▲0.2）	11.47
鹿児島※	328（▲10.1）	180（▲1.1）	89（ 5.8）	68（ 22.3）	5	2.5（▲0.2）	11.14
福岡中央※	48（▲1.6）	34（▲1.4）	6（ 3.0）	4（ 78.8）	1	4.1（▲0.3）	7.75
北九州※	72（▲7.7）	54（ 2.5）	17（ 2.0倍）	16（ 2.6）	▲3	1.2（▲0.2）	10.88
筑邦	86（▲5.2）	33（▲1.5）	3（▲52.0）	6（ 19.0）	▲1	3.4（▲0.3）	8.38
佐賀	177（▲27.4）	91（ 0.0）	17（▲79.2）	21（ 14.7）	▲12	2.2（▲0.3）	8.02
佐賀共栄※	27（▲0.0）	17（ 5.3）	3（ 2.1）	3（ 16.3）	▲0	3.4（▲0.7）	7.98
十八	240（▲6.9）	91（▲2.6）	32（ 16.4）	32（▲15.4）	▲1	2.6（▲0.4）	11.70
大分	318（ 8.0）	113（▲2.4）	48（▲0.3）	65（ 24.0）	▲30	3.0（▲0.2）	11.22
豊和※	50（▲0.7）	36（▲1.2）	7（▲11.1）	4（ 3.3倍）	1	5.0（▲0.8）	8.79
宮崎	265（ 1.2）	125（▲0.0）	57（ 5.6）	40（▲11.9）	4	1.7（ 0.0）	9.79
宮崎太陽	75（▲4.2）	41（▲3.4）	10（▲9.6）	13（▲11.9）	1	4.8（▲0.3）	10.50
南日本	90（▲8.6）	64（▲2.5）	14（▲25.4）	11（▲16.7）	0	6.1（ 0.1）	8.49

【表の見方】単位は金額が億円、比率が％。▲はマイナス。かっこ内は2016年9月中間期からの増減率で単位は％、不良債権比率のみ単位はポ。※は単体決算。経常収益は売上高に相当。貸出金利息は貸し出しで得た利息収入。コア業務純益は銀行本業のもうけを示す。信用コストの▲は貸倒引当金の戻り益を意味する。

FFGはふくおかフィナンシャルグループの略で、傘下に3行。FHは西日本シティ、長崎を傘下に持つ西日本シティフィナンシャルホールディングスの略。16年10月設立のため前年との比較はできない。九州FGは肥後、鹿児島が設立したプ九州フィナンシャルグループの略。

地場企業決算

連結ベース。※は単体。売上高（銀行は経常収益）、経常利益、純利益の順で単位は100万円。（）内は前年同期比増減率％。▲は赤字またはマイナス

【9月期】
梅の花（福岡県久留米市）
31、394（6・8）
267（4・3倍）
▲414（赤字転落）
和食店「すし半」などを子会社化し、売上高は過去最高。店舗の減損損失を計上し、純損益は2年ぶりの赤字となった。次期予想は増収増益。

【9月中間】
ヒガシマル（鹿児島県日置市）
7、299（8・8）
389（2・3）
200（16・0）
水産飼料販売や子会社の鮮魚卸売りが伸び、5年連続の増収。飼料の原料費は上がっ